

公式サンプルから、業務採用の条件を決める

Microsoft Agent Framework 業務採用時の制御設計レビュー

標準納品の形式見本 / 本体2ページ / 改訂確認用

公式サンプルは、承認要求と応答を接続するデモとして意図どおりに作られています。本レビューは、実メール送信へ接続する際に採用先が決める承認・内容同一性・再送・証拠の条件を、対象コードの経路に沿って整理します。

対象版と方法	作成・確認・改訂
microsoft/agent-framework 95e711a6280d0ed7bafa5bafb8ff38eba4cffd3e 固定ソース1ファイルの静的レビュー	初版作成: 2026-09-29 旧版の内容確認: 2026-09-30 改訂: 2026-10-01 / v0.2

対象: python/samples/03-workflows/human-in-the-loop/agents_with_approval_requests.py

公開見本には採用先がないため、所見の採否は未決定です。各所見は設計提案であり、実行検査結果ではありません。旧版の内容確認記録は保持し、改訂版は公開前の人間確認に回します。

一般的なチェックリストとの差

観点	項目確認型のチェックリスト	このレビューで示すもの
見る単位	承認・ログ等の項目の有無	固定版のコード経路と、その経路に適用する業務条件
根拠	確認項目への回答	ファイル・関数・行番号へ戻れる観測事実
判断	適合・不足の整理	事実・推論・代替説明・未観測範囲を区別
実装へ渡すものの	追加すべき項目	照合地点・対象・成立条件・確認すべき問い

チェックリスト自体の優劣や、AIの能力差を示す比較ではありません。ここでは成果物の粒度と根拠の扱いを比較しています。

対象コードから導く、実装前の判断

要求IDへの承認応答の対応付けは読めます。実配送要求への接続は模擬実装なので、採用先が照合地点・照合対象・変更時の扱いを決める必要があります。

先に決める: 承認する人と有効条件、承認内容と最終要求の対応。

実送信接続前に決める: 再送条件、送信結果と証拠の区別。

行番号と推論の詳細は、別冊「根拠付録」で追えます。

実装へ渡す条件と、確認すべき問い

5観点は公開見本の説明範囲です。実案件の標準範囲は1フロー・制御条件1〜2個で、着手前に合意します。

制御条件案	実装後に確認すること
M-F1 承認者と有効期間を定める 承認の主体・役割・対象業務・時刻・期限・取消状態を固定し、欠落・拒否・失効時は送信要求を発行しない。	無権限・期限切れ・拒否済みの承認を、送信要求の発行条件から除外できるか。
M-F2 承認対象と送信要求を一つに束ねる 承認対象にTool・宛先・件名・本文・送信主体・業務範囲を結び付け、外部要求を構成する地点で照合する。	承認した要求と最終送信要求の、識別子・内容・送信主体を同じ対象として照合できるか。
M-F3 承認後の意味変更を再承認へ戻す 宛先・本文等の意味を確定してから承認する。承認後の意味変更は旧承認を無効化して再承認し、意味を変えない加工の扱いは採用先が定める。	承認後の意味変更を検出し、変更後全体の再承認へ戻せるか。
M-F4 結果不明時の再送条件を定める 未送信・受付済み・結果不明・配達結果を区別する。結果不明は照会・保留を基本とし、重複防止が保証される範囲の再試行条件を採用先が定める。	受付結果が不明なとき、重複作用を避ける条件と再送判断の責任者が定まっているか。
M-F5 送信結果と証拠の充足状態を分ける 承認・照合判断・送信試行・受付結果を同じ識別子群へ結び付ける。送信結果と証拠不足を別々に表示し、閲覧権限・保持方針を定める。	送信の結果状態と、承認から受付までを裏付ける証拠の充足状態を分けて説明できるか。

採用先が決めること

- ① SDKと送信アダプターのどちらが、承認内容と最終要求の照合を担うか。
- ② 意味を変える加工・再試行・証拠欠落を、どの状態へ戻すか。
- ③ 既存制御で満たす範囲と、追加実装する範囲をどう分けるか。

レビューの範囲と成果物

標準成果物は2ページレビューシートです。別冊の根拠付録は公開見本用の補足で、標準納品への付属を約束するものではありません。詳細な検査手順・障害注入方法・実行検査は別工程として範囲を合意します。

本資料は弊会が公開情報から独自に作成した設計提案です。Microsoftから依頼・承認・認定を受けたものではありません。対象SDK・サンプルは未実行で、製品全体の安全性・脆弱性・適合性は判定していません。

AIの支援で作成し、根拠・推論・主張範囲を人が確認する工程を設けています。作成と助言は同一工程であり、この資料自体を独立第三者検証の結果とは扱いません。